

電子マネーを利用した公金収納の取扱いを明確化することにより、住民や観光客の利便性が向上

～電子マネーを利用した公金収納の取扱いの明確化～

地方に対する規制緩和

詳しくは提案募集方式データベース「30年」管理番号「13.96.200」で検索!

二次元コードからもアクセスできます



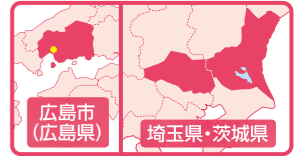
ポイント

公金の収納における電子マネーの利用について、利用に当たっての留意事項等を明確化することにより、地方公共団体における電子マネーの導入が容易になり、住民や観光客の利便性が向上

(通知 電子マネーを利用した公金の収納について(平成31年3月29日 総行第102号))



地方公共団体の公金収納における電子マネーの導入に大きな後押し、キャッシュレス化の促進に寄与



取組の概要

- キャッシュレス化が急速に進む中、地方公共団体における電子マネーを利用した公金収納(使用料・手数料の収納)の取扱いが不明確で、多くの地方公共団体が導入を躊躇する状況となっていた。

使用料	公営の体育館や美術館、駐輪場等の公共施設の利用に係る費用など
手数料	住民票や戸籍抄本の写し等、各種証明書発行に係る費用など

例えば、外国人観光客も多く訪れる恩賜上野動物園でも入場料の支払方法は現金のみであった。



- このため、総務省は、電子マネーを利用した公金収納の取扱い範囲や留意事項等を整理し、通知を发出(平成31年3月29日 総行第102号)した。

取組の成果

- 東京都・・・独自に公金収納における多様な支払方法を検討しており、既に多くの施設で、クレジットカードや電子マネーといった支払方法の多様化を進めていた。令和元年度には、恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園の4施設で電子マネーを導入済み。また、恩賜上野動物園の入場料について二次元コードを利用した実証実験を開始した。※令和元年12月1日現在
- 埼玉県・・・歴史と民俗の博物館(さいたま市)、加須げんきプラザ(加須市)、自然の博物館(長瀬町)、近代美術館(さいたま市)、さきたま史跡の博物館(行田市)、嵐山史跡の博物館(嵐山町)、川の博物館(寄居町)いずれの施設も二次元コード決済を導入済み。※令和元年12月1日現在
- 茨城県・・・各施設所管課等を集め、金融機関やモバイル決済サービス事業者等を交えた勉強会の開催のほか、早期の導入検討を促す通知等を複数回発出するなどの取組を実施。窓口で入館料等を徴収する施設のうち、既に20施設において、キャッシュレス決済を導入済み。※令和元年12月1日現在

電子マネーが導入された例：埼玉県立近代美術館（埼玉県）



埼玉県立近代美術館（埼玉県）

埼玉県では、利用者の利便性向上や観光分野におけるインバウンド施策の観点から、美術館や博物館等の公の施設でキャッシュレス決済を導入。また、多様化していくキャッシュレス決済に関する情報収集に努め、導入施設の拡大等を検討している。



埼玉県立近代美術館で導入された二次元コードでの支払いの例

小銭いらずで、スムーズに観覧できました

利用者の声



- ・財布を出して小銭を探す手間が省ける。
- ・現金の持ち合わせがなくてもチケットを購入でき、スムーズに観覧できた。

来館者のニーズにも応えることができ、ますます便利に!

関係者の声



埼玉県立近代美術館
担当者

二次元コード決済を導入することで支払方法が広がり、来館者サービスの向上に繋がった。「現金以外で支払いできないか?」との声に、少しでも応えることができた

電子マネーが導入された例：偕楽園（茨城県）



偕楽園（茨城県）

茨城県では、利用者の利便性向上及びキャッシュレス決済の県内への普及促進を図る観点から、一般の利用者が多い観光施設や美術館等のもとより、窓口において利用料金を徴収する公の施設等について、早期にキャッシュレス決済を導入するべく取り組んでいる。



偕楽園で導入された二次元コードでの支払いの例

色々な決済方法があり便利だと思います!

利用者の声



- ・クレジットカード、電子マネーなど色々な決済方法が可能で便利。
- ・外国人客もスムーズに支払いできていた。

外国人観光客の誘客にも取り組み、偕楽園の更なる魅力向上に取り組んでいきます

関係者の声



茨城県
土木部都市局
都市整備課 担当者

日本三名園の一つである偕楽園では、偕楽園本園の有料化に伴い、入園料の支払方法の多様化の検討を進めていましたが、電子マネーの取扱いが明確化されたことで、交通系ICカードや二次元コードなど、入園料支払のキャッシュレス化を円滑に実現することができました。今後も、県内外のみならず、外国人観光客の誘客にも取り組み、日本を代表するような観光拠点化を目指し、偕楽園の更なる魅力向上に取り組んでいきたいと考えています。

電子マネーが導入された例：都立4施設

（恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園）

東京都では、動物園や水族館の入場料については窓口と券売機での現金収納のみであった。

これらの施設では、利用者の声も受け、令和元年9月までに窓口で、訪日客が対応しやすいクレジットカードのほか、国内客の使い勝手向上のため「スイカ」や「パスモ」など交通系ICカードの対応も可能にした。また、令和元年11月には、恩賜上野動物園で二次元コードを用いた入場料収納の実証実験も始めた。



恩賜上野動物園で導入された交通系ICカードでの支払いの例

東京都が電子マネーを新たに導入した4施設

出典：(公財)東京動物園協会



今後の導入予定…神代植物公園、都庁舎施設の一部（展望室など）

財布を出さなくて良いので便利!

利用者等の声



入場券でも園内の売店（以前から利用可能）でも電子マネーが利用でき便利だ。
※恩賜上野動物園券売所の担当者は、上野駅から近いこともあり、交通系ICカードでの円滑な入園を期待。

明確化により、公金収納における電子マネーの利用が全国に波及することを期待

関係者の声



東京都会計管理局
管理部会計企画課
企画担当

総務省の通知による明確化を通じて、全国の自治体でも電子マネーによる公金収納が進むことで、全体の利便性が向上し相乗効果が生まれると良いと考える。都としては、今後も公金を収納する施設に随時電子マネーを導入していく予定。